



ふた がみ やま

二上山と

なかよくなるガイドブック

ニイ ナナ ヨン

274

GUIDEBOOK



自然となかよく

景色となかよく

歴史となかよく

伝説を知ろう

周辺を知ろう

能登半島国定公園

二上山

高岡市



標高 274m の山は、 やさしくて、楽しくて、新しい。

ふたがみやま 二上山の未知を探そう！

ふたつの峰を持つ二上山。

その名は、峰を神に見立てて名付けたといわれ、

万葉の歌人、おおとものやかもち大伴家持も二上山を歌に詠んでいる。

やさしい姿がいにしえより尊ばれ、愛されてきた山。

私たちは今、ドライブやトレッキングなどで

景色の美しさや自然の多様さを楽しんでいる。

でも、二上山には、まだ知らない魅力がある。

さあ、好奇心と一緒に二上山へ出かけよう。

タイトルの「274」には、二上山の標高(274m)と「二上山となかよく」との思いを込めています。



ホトギスのぼっとくん

ぼくは、ホトギスの「ぼっとくん」。
大好きな二上山をみなさんに紹介
します。

大伴家持さまが、ぼく
のことを歌に詠んだん
だけど、知ってる？



CONTENTS

自然となかよく …… 04

景色となかよく …… 10

歴史となかよく …… 16

伝説を知ろう …… 24

周辺を知ろう …… 26

ACT.1

ACT.2

ACT.3

ACT.4

ACT.5

Natural に楽しむ二上山

二上山は、自然豊かな山。遊歩道、植物園などが整備されています。また、月の名所であり、桜や紅葉も美しい山です。ドライブコースからの眺望も楽しめます。

Deep に味わう二上山

二上山とその周辺は、古代から重要なエリアでした。奈良時代から国府が置かれ、戦国時代、二上山には山城が築かれました。歴史の舞台となった二上山を深く旅してみませんか。



てんきのひは
ドライブ!

二上山へ行こう。

気軽に爽快な自然トリップ。

約8.4kmのドライブコース「二上山万葉ライン」があり、快適ドライブを楽しめる。遊歩道や散策コースもいろいろあり、コースを選んで楽しもう。▶詳しくはP6、P7へ



二上山万葉ライン

- 営業時間：通行自由
- 休業日：冬季(12月~3月)ゲート封鎖
- 料金：無料
- 駐車場：5ヶ所あり101台
- 駐車料金：無料

国道160号線側入口から入る

二上山は自然がいっぱい

万葉ゆかりの植物を楽しむ 万葉植物園



クヌギやハギ、タブノキなど、万葉集に歌われている約60種類の植物を自然のままに見ることができる。約1万平方メートルの広さがあり、散策コースも設定されている。



ヤブツバキ
(つばき科)



万葉集の
歌を紹介

二上山で見られる野鳥たち

二上山では、美しい鳴き声のキビタキや、腹部の赤がポイントのアカゲラ、青い体が美しいオオルリなど、多様な野鳥たちを観察することができる。オオルリは、鳴き声も美しく、日本三鳴鳥のひとつ。姿や鳴き声をチェックすれば、散策時にも二上山の自然をより豊かに感じることができる。



キビタキ

滝が落ちる涼やかな別世界 城光寺の滝



車が入れない道を10分をほど歩くと、あたりの空気が涼やかになり、滝が見えてくる。落差8メートルで、地元では「めいせんどの滝」と呼ばれているが、その由来ははっきりしない。かつては、涼を求めて滝に来る人でにぎわっていたという。二上山の別世界ともいえる空間である。

城光寺の滝▶



二上山を、自分の足で感じてみる。

二上山万葉ラインから一步入れば、そこは自然が息づく森。二上山は、気軽な山歩きに最適な環境だ。遊歩道もあり、コースタイムなど、自分の体力に合わせて楽しもう。

自然のアップダウンを歩く爽快さ

遊歩道には標識も設置され、行き先を確認しながら、安心してトレッキングが楽しめる。

二上山山頂や大師ヶ岳山頂などを到達点に、高低差を楽しみながら、山道や竹林などを抜けて歩く心地よさ。自分の足で歩く爽快感は、街では味わえない。

森の道は オーシャンビュー

背の高い木々の間から、木漏れ日が揺れる。竹林では、光の清々しさもひととき。そして、二上山散策ならではの特別メニューは、時折見える富山湾、そして立山連峰。森の道を歩いていると、視界の向こうに、広い海原。歩いてみないとわからない贅沢な時間だ。

～二上山地名考～

- 城山** 城塞。守山城のあった平坦地をいう歴史的地名。
- 城殿** 城があったとされる所。丘上や山腹の平坦地の意。
- 出しゃ高** 高い所の意。
- 馬鞍** ▶P23 参照 中世の時代に馬小屋があったとされる所。
- 殿さぼ** 尾根の沢・小川の意。
- 七曲** くねくねと曲がりくねっている意。
- 海老坂峠** 坂戸峠の同意を含んだ珍しい名称で海老のように曲がりくねった尾根を越える峠。
- 信玄谷** 伝承で、この谷に武田信玄が逃げ込んだので命名されたと言われている。

二上山散策コース

大師ヶ岳コース 全行程 約12.8km 所要時間 約3時間20分
伏木古府▶平和の鐘▶大師ヶ岳山頂▶国泰寺▶義経岩▶雨晴駅

馬鞍コース 全行程 約6.0km 所要時間 約1時間35分
二上登山口▶万葉植物園▶二上山山頂▶城山園地▶万葉ライン口

幻の滝コース 全行程 約5.5km 所要時間 約1時間40分
下二上▶万葉植物園▶二上山山頂▶城光寺の滝▶城光寺運動公園



爽やかな空気のなかで味わう。
収穫の喜びも貴重な体験。

二上山の実りは
おいしいよ！



どのやま
(農)殿山
農園

二上山の丘陵で、太陽の光を
たっぷり受けて甘い果樹が
実る。秋には、いろいろな味
覚を味わうことができる。



リンゴ摘み／11月中旬頃
TEL.0766-44-5775

太田
ラッキー農園

バーベキューハウス、キャン
プ場、サツマイモ園があり、
家族で楽しめる。



バーベキュー／4～11月
サツマイモ掘り／9月中旬～11月上旬
TEL.080-5091-9024
※ 摘み期間については、年により変動がありますので
施設にお問い合わせください。

二上山は、大切なことを教えてくれる。

しょうこうじ
城光寺運動公園

園内には野球場、陸上競技場、補助競技場があり、各種大会が開催
されるほか、練習の場としても利用されている。

陸上競技場

規模
トラック／1周400m8レーン
フィールド／走高跳、棒高跳、三段跳、走幅跳、
ハンマー投げなど

収容人数
メインスタンド1,000人
芝スタンド4,000人

利用時間
午前9時～午後5時
TEL.0766-44-6785



野球場

規模
両翼91m、中堅122m

収容人数
メインスタンド2,800人
内野スタンド1,800人
外野スタンド4,000人

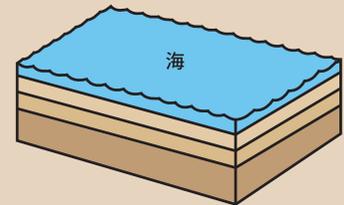
利用時間
午前9時～午後5時
TEL.0766-44-5189



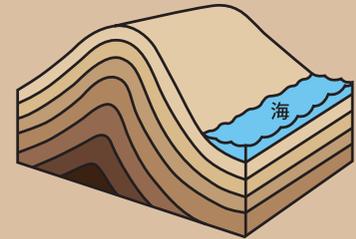
おだやかな稜線の理由は、隆起でできたこと

二上山のなりたち

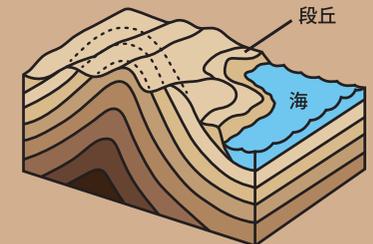
- 1 海底で地層ができる新生代新
第三紀の終りごろ(約1000万
年前)、海底で土砂が堆積する。



- 2 隆起して陸地になる数100万
年前、海底の地層がゆっくり隆起
して、陸地になる。二上山は、
中央がより盛り上がったため、南側
で南東方向に傾いている。



- 3 浸食され、やがて山麓に段丘
ができる風雨によって浸食され、
やがて谷ができ、氷河時代には
海水面が上下し、何段かの段丘
ができた(数10万年前)。現在
の平野は1万年後以降にできた
もの。



274
GUIDE

ACT.2

景色と
なかよく



二上山ならではの身近な景色

山に登ったご褒美は、目の前に広がる眺望。
二上山にも、眺望スポットや展望台があるので、
ぜひ楽しんでほしい。
高岡市街を見渡し、富山湾の向こうには立山連峰、
氷見方面には能登半島も見える。
二上山からの眺めのいいところは、
川や建造物などが身近に見えること。
二上山では、景色ともなかよくなる。



二上山山頂の日吉社



万葉ライン口

二上展望台（月見台）

二上山山頂近くにある展望台で、
東向きに建てられており、別名
「月見台」。山々の向こうから昇る
月を眺めることができる。



城山園地から高岡を眺める

二上山の2つの峰のうち、西の峰が守山城跡になる(259m)。ここに、若き日の加賀前田家二代当主前田利長が、守山城主として居住していた。

遠く能登半島から氷見、高岡市街地、射水市、小矢部川や砺波平野を一望でき、利長は、関野(のちの高岡)が地の利に恵まれていることを見極め、後に高岡城を築城した。立山連峰を望む眺望は、富山県が指定する「ふるさと眺望点」に選ばれている。



ふるさと眺望点

富山県内の優れた景観を眺望できる地点が指定されている。

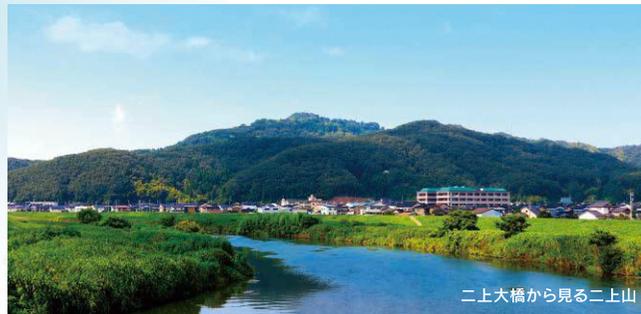
▶詳しくはP20へ



小矢部川と二上山の関係

小矢部川は、富山県の7大河川のひとつで、大伴家持が歌に詠んだ万葉の「射水川」のこと。かつては庄川が河口付近で合流していたため、庄川の洪水の影響を受けていたが、明治時代に河口が分けられた。

今も、田園風景の中を蛇行する小矢部川の流れることができる。



二上大橋から見る二上山



城山から見る小矢部川の蛇行

平和観音像

世界平和と人類の繁栄を祈願し、昭和44年に高岡市制80周年を記念して、二上山の城山園地に建立された。本体はブロンズ製で、6メートル。高岡は、銅器のまち。万葉ラインは、ブロンズ像や鐘などが点在するブロンズラインでもある。



三角点

平和観音像の前方にある二等三角点。二等三角点は約8km間隔で設置されている。ぜひ見つけてみよう。

三角点は正確な位置を求める測量を行うときに基準となる点です。

平和の鐘

重さ11トンの大梵鐘は、誰でもつける鐘としては国内で最大級の大きさである。昭和44年に、高岡市制80周年を記念して二上山に建立された。高岡銅器の技術で造られた鐘の音を、ぜひ響かせてみよう。



平和の鐘data

口径:1.82m
重量:11.25t
鐘身:2.57m
総高:3.33m
デザイン:人間国宝 香取正彦

ナイトビューを見に行く

絶景を眺めることができる二上山は、夜景のビュースポットでもある。

城山園地からは、南方向に高岡古城公園や市役所などの中心部、東方面に富山湾と新湊大橋、南西方向に小矢部川の蛇行のナイトビューを楽しむことができる。

特に、トワイライトタイムの眺望が美しい。



二上山は
夜景も魅力!



ACT.2



城山園地から見る夜景

歌人の心と
響きあう

若き国守が越中国に赴任

万葉集に473首もの歌を残す歌人、大伴家持。そのうち、越中に在任中の歌が223首。

家持を感動させ、歌を詠ませた越中国と家持の思いをたどる。



大伴家持像

「万葉のふるさと高岡」のシンボル
像高:2m 作:米 治一

万葉集を代表する歌人、大伴家持は、越中の国守として赴任し、この地で数々の歌を詠んだ。二上山も歌にした。

山頂近くに、若き日の大伴家持像がある。二上山の緑のなかで、今にも新しい歌を書き出しそうな姿。越中の自然に感動した家持の心情が伝わる像である。

奈良をはなれ、越中国へ

大伴家持は、14歳の時に父の旅人を亡くし、大伴氏の家督を継ぐ。そして、天平18年(746年)、越中の国守として赴任し、この地に5年間滞在した。

平城宮から、遠く越中国にきた家持。ここでは、奈良とは違う雄大な山や海、川など見るものすべてが新鮮だった。

国府が二上山のふもとにあり(現在の高岡市伏木)、奈良の二上山と同名であることから、越中の二上山の姿を身近に感じていたであろう。二上山に鳴くホトトギスの声を恋しく思う歌を詠んでいる。



ほくはこの歌に詠まれているよ

玉くしげ 二上山に 鳴く鳥の
声の恋しき 時は来にけり

(たまくしげ)二上山に鳴く鳥の
声が恋しくてならない時が、
どうとうやってきた。

(巻17・三九八七)

朝床に
射水河

聞けば遙けし
朝漕ぎしつっ

唱ふ船人

朝の床のなかで耳を澄ますと
遠くはるかに聞こえてくる。
射水河を朝漕ぎながら歌う舟人の声が。

(巻19・四一五〇)

のどやかな越中の日々

射水河とは、現在の小矢部川のこと。家持が暮らしていた国守館は、射水河の河口に近い高台にあったと考えられ、明治時代まで、その下を射水河が流れていた。今より水量が多く、ゆるやかに流れ、多くの船が行き来していたという。目覚めた家持の耳に、船人の歌が聞こえる。ゆったりとした朝の風景が目につかぶ。



山々に神を見る

3,000m級の立山連峰は、都から来た家持に大きな感動を与えたことがない山。それは、神だからだと、家持は歌に詠んでいる。立山(太刀山)は、現在の劔岳を中心とした一帯だという説もある。どの山であろうと、海越しの立山連峰の壮大さ、白い雪をいただく美しさは変わらない。一年中見ても飽きない絶景である。

立山に 降り置ける雪を
常夏に 見れども飽かず
神からならし

立山に降り置いている雪は、
夏のいま見ても見あきることがない。
神の山だからにちがいない。

(巻17・四〇〇一)

うま
並めて
馬並めて
いざ打ち行かな
しぶたに
浪の
清き磯廻りに
寄する波見に

馬を並べて、さあ出かけようじゃないか。
浪の清らかな磯辺に打ち寄せる
波を見るために。

(巻17・三九五四)

荒波が岩に寄せる

「浪の(しぶたに)」とは、二上山の山裾が海に入り込むあたりのことで、かつては岩の多い険しい地だったという。荒波が打ち寄せる光景を見に行こうと誘う、心が高揚する歌である。

やがて、この険しい道に義経と弁慶一行が通りがかり、雨が晴れるのを待ったことから、現在では「雨晴(あまはらし)海岸」と呼ばれている。



越中国庁跡(高岡市伏木気象資料館)

国守が暮らしていた国守館は、高台の端にある現在の高岡市伏木気象資料館あたりとされる。この場所には全国初の民間測候所として始まり、明治42年に移転した洋風木造建築が今も残る。



高岡市伏木気象資料館
高岡市伏木古国府12-5
TEL.0766-44-6905

越中国庁跡

国守が政務を執っていた国庁は、伏木台地の高台にあったとされる。現在の勝興寺のあたりにあったと考えられ、境内には越中国庁跡の石碑がある。



▶ 詳しくはP28へ

ここから遙か万葉時代へ 思いを馳せる

高岡市万葉歴史館

伏木の高台に建つ高岡市万葉歴史館は、万葉集に関する本格的な施設として開館。豊富な文献や資料を揃え、研究や情報収集、教育、展示などの活動を行っている。館内には、大伴家持の生涯や越中万葉の歌を紹介する常設展示のほか、新しい視点で万葉集を見せる企画展示、万葉集に詠まれた植物が楽しめる庭園などがある。



高岡市万葉歴史館

高岡市伏木一宮1-11-11
開館時間/午前9時～午後6時(11月～3月は午後5時まで)
料金/一般…300円 中学生以下…無料 65歳以上…240円
団体(20名以上)…240円
休館日/火曜日(火曜日が祝日の場合はその翌日)・年末年始
※年末年始・連休前後など開館日が変更される場合がありますので、ホームページの年間スケジュールでご確認ください。
TEL.0766-44-5511

※身体障害者手帳等をお持ちの方と、付添者の方が観覧するときは無料となります。(受付で手帳をご提示ください)
※特別展示等を行う場合に、別料金となるときがあります。
※ラウンジ・図書閲覧室をご利用の場合は、観覧料は必要ありません。
※授乳室あり。多目的トイレにオムツ交換用ベビシート設置。

正法寺

伏木八十八ヶ所として信仰される寺で、境内には、自然石に越中万葉歌を彫った歌碑が置かれ、万葉研究者の佐佐木信綱の筆による歌碑もある。



家持くん



ACT.3

ものふの 八十娘子らが 汲みまがふ
寺井の上の 堅香子の花

(ものふの) たくさんさんの少女たちが入り乱れて
水を汲んでいる寺井のほとりに
群がり咲いているかたかごの花。

(巻19・四一四三)

かたかごの花



二上山 城ものがたり

越中の国を一望する守山城

二上山の西峰には、かつて「守山城」と呼ばれる城があった。現在の城山園地の場所である。ここは、越中平野を一望する絶好の地であった。

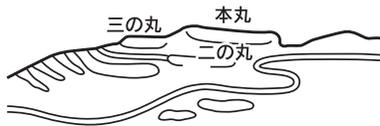


守山城をめぐる数々の攻防

守山城は、別名二上城、海老坂城ともいう。本丸跡地に立つと、前方を小矢部川に守られ、遥か高岡、射水を見渡せる。築城の時期は明らかでないが、南北朝時代にはあったと考えられる。

戦国時代、永禄11年(1568)に、上杉謙信が越中へ侵攻し、守山城を攻めたが、一度は中断。天正4年(1576)に攻め落としている。その後、神保氏張や佐々成政が在城したが、天正13年(1585)には、前田軍が佐々成政を破り、その功により前田利長が越中三郡を与えられ、守山城を居城とした。24歳の若さであった。

守山城跡(本丸跡)
築城時に、削ったため、平らになっている。



本丸下から本丸への階段

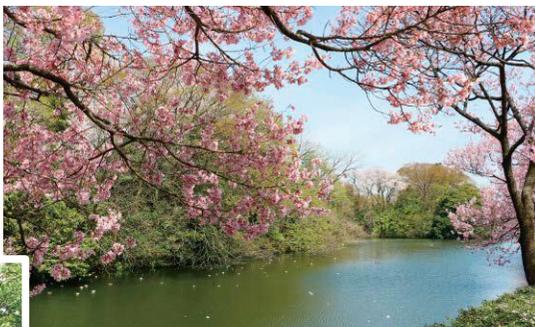
将来の殿を養育した城

入城した利長に、眼下に広がる越中平野はどのように映ただろうか。利長入城の翌年、利長の義兄・前田長種が城代(城主の留守中、城を守る人)となり、利長の姉・幸とともに移り住んだ。文禄2年(1593)、父利家と側室の間に男子が誕生する。利長32歳の時である。この異母弟は、前田長種と幸夫妻のもとに預けられ、守山城で養育されることとなる。この子が、後の前田家三代当主利常である。幼き日より城下の小矢部川と平野を眺めながら、長種夫妻のもとですくすくと育っていくのである。

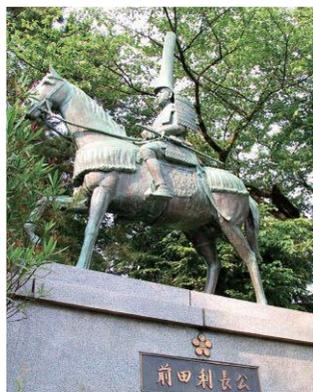
やがて役目を終えて

慶長2年(1597)、利長は富山城へ移り、大修築するが、その翌年、利家より家督を譲られ、金沢城に入城する。利長が守山城を去った後、城下の寺院や商工業者たちも次々と富山に移り、守山城の城下町はさびれていったという。慶長4年(1599)には、長種も富山に城代として移ると、守山城は使われなくなっていく。時代は、徳川の世を迎えようとしており、山城から平城へと城も変わっていったのである。そして慶長10年(1605)、利長は、この年元服した利常に家督を譲り、自身は富山城へと移った。

そして、 高岡城の 築城へ



枅形濠



前田利長像(本丸)



石垣(二の丸・本丸間)

新しい城を築き、町を開く

利長が隠居した富山城は、城下の火災で類焼。そこで利長は、すぐに関野の地に新しい城を築くことを決める。

そこは、かつて守山城から眺めていた地だった。越中、能登、加賀のほぼ中心にあり、守山城、富山城、増山城などと連携も取れる。水運がよく、北側には沼地があり、防御にも優れている。

徳川家康から許可を得た利長は、関野に城を築き、町をつくる。新しい町の名前は、「詩経」の一節「鳳凰鳴けりかの高き岡に」から引用して「高岡」と命名された。高岡城は、自然の地形を生かしてつくった壮大な城となった。

今も水をたたえる城跡

利長の死後、高岡城は一国一城令で廃城となる。しかし、前田家は土塁や堀を残し、塩蔵、米蔵を置くなど、城跡の保存に努めた。明治になり、城跡は高岡古城公園となったが、水濠はほとんど築城時の姿をとどめ、今も満々と水をたたえている。また、自然を豊かに残し、春は桜、秋は紅葉と、人びとに親しまれている。



利長くん

守山城跡を探索しよう!

城山園地は、守山城の跡。お城の縄張図を見ながら散策すると、土地に残る郭のあとなど見えてくるかも。戦国時代の人々の気持ちを想像してみよう。



城山から見る高岡古城公園



ACT.3

本丸入口

守山城縄張図

伝説を
知ろう

木造男神坐像(重要文化財)

古代信仰を受け継ぐ行事

毎年4月23日、春祭に「築山行事(つきやまぎょうじ)」が行われる。境内の三本杉前に祭壇を設置し、二上山山頂の日吉社など三神の御幣を立て、祭壇の回りには桜が飾られる。天上から臨時の祭壇に神を迎える古代信仰の形を残しており、築山が曳山に



二上山山頂の日吉社(奥の御前)

二上射水神社

—ふたがみいみずじんじゃー—

二上山をご神体とする神社

奈良時代の創建といわれ、二上山をご神体とする。神社をまとめた「延喜式神名帳」に記された、越中国34社のうち、名神大社(神々の中で特に古来より靈験が著しいとされる神)の一つと伝えられる。

慶長14年(1609)、高岡開町時より前田家の保護を受け、明治時代まで続いた。

明治になって高岡古城公園に遷座したが、現在は射水神社元宮として、古代信仰を今に伝える。

所蔵する「木造男神坐像」は、全国最大級の鉦彫り彫刻神像で、国の重要文化財に指定されている。ケヤキ材の一本造りで、平安時代後期の作。顔は、丸ノミの跡を残し、筋肉の躍動を伝え、衣はなめらかさを表現するため平ノミで仕上げている。平成28年、文化庁主催の海外展「日本仏像展」に出展され、イタリア・ローマの美術館で展示された。

発展していったと考えられ、高岡御車山の原形を知る上でも貴重である。



築山行事(県指定無形民俗文化財)

悪王子伝説

—あくおうじてんせつ—

封じ込められた荒神

昔、二上山には悪神が住み、人々を支配していた。ふもとのまないた橋の上に、毎月1、8、13、23、28日の5回、15歳以上の娘を人身御供として差し出さねばならなかった。これを怠ったら、二上の神の分身である悪王子が、五穀を大凶作にしてしまう。

天皇がこれを知り、僧の行基を遣わした。行基は、二上山の山中にこもり、一心に法華経を唱えた。ついに、妖怪は大蛇の姿をあらわす。行基は、これを悪王子の宮に封じ込め、神として祀った。そして、これまでの人身御供に代えて、初穂知識米をお供えることとした。

紅葉姫伝説

—もみじひめでんせつ—

悲しい結末に彩られて

越中国の太郎は、労役の任を果たすために都に上った。御所の庭掃除をしながら、歌を口ずさんでいると、その声の素晴らしさに紅葉姫が心惹かれる。姫は、太郎と親しくするようになるが、やがて太郎が帰る日が近づく。

「黒烏(くろがらす)の羽をそろえて発つ時は九重の塔も下に見るなり」。黒烏とは、太郎のあだ名。この歌を帝が知り、紅葉姫の気持ちを察し、結婚を認めた。

二人は、手を取り合い、越中国へ向かう。太郎の住む村に近づいたころ、もう食べ物がなく、太郎は栗などを探しに行く。残された紅葉姫は、なかなか戻らない太郎



悪王子社入口



悪王子社(前の御前)

悪王子社は、前の御前と呼ばれる地にあり、今でもその回りを7回半走り抜けると、大蛇が姿を見せるという。



を探して歩き出す。ようやく戻った太郎が見つけたのは、谷川に落ちて冷たくなった姫だった。太郎は、泣き叫ぶ。そして、二度とこのようなことがないように橋を架け、「紅葉橋」と名付けた。





雨晴海岸の気風と女岩

世界で最も美しい湾は、物語の舞台でもあった



義経岩

源義経一行が奥州へ落ちのびる途中、にわか雨に降られ、晴れるのを待ったという岩。「雨晴」の名の由来とされる。



義経神社

あまほらし

雨晴海岸(国定公園)

ユネスコが後援する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾。その富山湾越しに、3,000m級の立山連峰を望む雨晴海岸。他にはない絶景は、人々を引きつけてやまない。

大伴家持が歌に詠んだ地

万葉集に「渋谿(しぶたに)」と詠まれた海岸。海も立山も、都から来た家持の心を強くとらえた。

松尾芭蕉があこがれた歌枕の地

「早稲の香や分入(わけいる)右は有磯海」。この地の歌枕にあこがれた松尾芭蕉の句が残されている。「おくのほそ道の風景地—有磯海—」として、国の名勝に指定。



義経と弁慶の物語「如意の渡」

兄の源頼朝の追手を逃れ、奥州平泉へ向かう義経一行が「如意の渡」と呼ばれる場所にきた。渡し船に乗ろうとすると、船頭に義経ではないかと怪しまれてしまう。

弁慶は、「あれは、加賀の白山より連れてきた御坊。あれのせいで怪しまれてしまうのだ」と言い、扇子を手にして何度も打った。船頭は、これは義経ではないと船に乗せ、一行は奈古に着く。弁慶は、「主君を打つなど、恐ろしいことだ」と涙を流し、義経もまた弁慶の思いに涙を流す。謡曲や歌舞伎に出てくる安宅の関のモデルとなった場面と言われている。

義経・弁慶像
(伏木駅前観光駐車場)

越中一宮の風格

けた 氣多神社(重要文化財)

延喜式内の古社で、越中一宮の一つとして古くより崇敬されてきた。社殿は、三間社流造り、こけら葺き屋根など、室町時代に再建された様式を今に伝える。境内に、大伴家持を顕彰して創建された「大伴神社」がある。



北陸路にある臨済禅の道場

まちはうざん こくたいし 摩頂山 国泰寺

臨済宗国泰寺派の本山。永仁4年(1296)、慈雲妙意が立てた草庵が始まりとされる。戦国時代には、守山城の攻防で焼失したが、神保氏によって再建された。禅の道場としても有名で、6月の開山忌には、虚無僧の尺八と読経の大合奏がこだまする。



越中真宗寺院の拠点として 権勢を誇る

国宝 勝興寺

文明3年(1471)に創建された浄土真宗寺院で本願寺中興の祖と言われる第八世蓮如上人ゆかりの名刹。

戦国時代には、一向一揆の拠点となり、藩政時代には加賀前田家や本願寺などと関係を深め、明治時代にいたるまで越中の真宗寺院や門徒をまとめてきた。

令和2年度までの23年をかけた「平成の大修理」によって、江戸時代後期の壮麗な伽藍へと蘇っている。

広大な境内において、「本堂」「大広間及び式台」の2棟が令和4年12月に国宝に指定されている。また、10棟が重要文化財に指定されている。

「勝興寺の七不思議」

- ・実ならずの銀杏
- ・天から降った石
- ・水の涸れない池
- ・屋根を支える猿
- ・魔除の柱
- ・雲龍の硯
- ・三葉の松

国宝 雲龍山 勝興寺

高岡市伏木古国府17番1号
拝観時間/3月1日～11月30日
午前9時～午後4時30分
(入場は午後4時まで)
12月1日～2月末日
午前9時～午後4時
(入場は午後3時30分まで)

料金(文化財協力金)／
一般・大人…500円 中高生…200円
小学生…100円
団体(20人以上) 大人…400円
中高生…150円 小学生…70円

TEL.0766-44-0037



本堂

江戸後期を代表する大型真宗寺院の本堂の一つ。約40メートル四方の屋根は、地方においては破格の規模とされる。この本堂は、勝興寺13代住職が還俗して加賀藩主となった前田治脩の支援のもと、本願寺の阿弥陀堂を規範として寛政7年(1795)に建立された。



本堂



対面所 一の間

大広間及び式台

本坊(住職が居住する坊舎)のうち対面所(公式な接客・集会の場)を有する建物。浄土真宗対面所の整備過程を体現する建物であり、歴史的価値は極めて高い。

伽藍配置



大広間



唐門

274 MAP

二上山を
楽しんでね!



373 至氷見
下田子北

296 上田子

160

32

30

太田中村

296

415

富山湾

至氷見

●桜谷古墳

雨晴駅

●義経岩

●女岩

●男岩

●武田家住宅

道の駅 雨晴

●雨晴温泉 磯はなび

●紅葉谷

●(農)殿山農園

●太田ラッキー農園

●与茂九郎池

●国泰寺

岩崎ノ鼻灯台

越中国分駅

大師ヶ岳 ▲
(253m)

摩頂山 ▲
(251m)

鉢伏山 (179m)

二上山万葉ライン

氣多神社
大伴神社

灯明台

越中国分寺跡

伏木コミュニティーセンター

伏木港

高岡市
万葉歴史館

高岡商工会議所
伏木支所

●仏舎利塔

●平和の鐘

●正法寺

高岡市
伏木北前船資料館

高岡市
伏木気象資料館

二上山山頂
(274m)

●月見台(展望台)

城光寺線遊歩道

●マツの広場

万葉ライン口
(伏木古府)

高岡市
伏木勝興寺

●国宝 勝興寺

●棚田家

●日吉社

●奥の御前

●城山園地
守山城跡

●前の御前

●悪王子社

●万葉植物園

●平和観音像

●大伴家持像

●ナラの広場

●城光寺の滝

●伏木駅

●義経・弁慶像

伏木万葉大橋

小矢部川

六渡寺

中伏木

新庄川橋

至越ノ湯

道新橋

撰社道

トニ山遊歩道

万葉ライン口

西海老坂

●金光院

●光台寺

●光蓮寺

●大杉神社

●二上射水神社

●慈尊院

●二上霊園

●城光寺運動公園

●院内社

●藤巻神社

●城光寺

●観音寺

●宗田寺

●城光寺橋

●矢田神社

●矢田

●城光寺橋

●宗田寺

●観音寺

●藤巻神社

●城光寺

●二上霊園

●院内社

●大杉神社

●二上射水神社

●光蓮寺

●光台寺

●金光院

●西海老坂

●万葉ライン口

●道新橋

●撰社道

●トニ山遊歩道

●大伴家持像

●平和観音像

●悪王子社

●前の御前

●奥の御前

●日吉社

●月見台(展望台)

●二上山山頂(274m)

●城光寺線遊歩道

●マツの広場

●ナラの広場

●平和の鐘

●仏舎利塔

●鉢伏山(179m)

●二上山万葉ライン

●万葉ライン口(伏木古府)

●高岡市伏木勝興寺(国宝)

●高岡市伏木北前船資料館

●高岡市伏木気象資料館

●高岡市万葉歴史館

●越中国分寺跡

●越中国分駅

●岩崎ノ鼻灯台

●女岩

●義経岩

●雨晴温泉 磯はなび

●道の駅 雨晴

●武田家住宅

●(農)殿山農園

●紅葉谷

●雨晴温泉 磯はなび

高岡広域MAP



二上山となかよくなるガイドブック274

発行 高岡市都市創造部 景観みどり課
〒933-8601 富山県高岡市広小路7-50
TEL.0766-20-1417

企画制作 株式会社アキデザイン

高岡市観光ポータルサイト▶

たかおか道しるべ 🔍



2016年10月 初版発行 2023年5月 改訂版発行